

第36代県教育委員長に就任した

人物

比嘉 梨香 さん



地帯

「開かれた教育委員会にしたい」。子どもたちが輝くには、地域、家庭、学校、行政など、大人が連携する必要があると強く感じている。二〇〇〇年に地域振興支援の会社を設立した。農業体験や民泊を企画する中で、共に汗を流す大人と出

大人の連携が役目

会い、自然、文化に触れて生き生きしていく子どもたちの姿を何度も見てきた。だからこそ「連携」の必要性を痛感。「いろいろな人が子どもたちのために、役割を果たす機運を高めていきたい」

教育にかかわる人、関心を寄せるさまざまな人たちから意見を聞く機会を設けたい。毎月一回の県教委会議は一般公開だが、傍聴者はほとんどいないからだ。「文化やスポーツ、子どもたちには多くの人がかかわっていて、みんな思いがある。その思いを吸収するため、みんなが話せる機会

をつくる」。それが、出会いを大切にしてきた自身の役目だと実感している。

委員長就任の五日は、着物姿で臨んだ。意気込みの表れかと思いきや、「仕事始めの日は気が引き締まるから毎年着物。十五年ぐらい続けている習慣」とにっこり。プレッシャーも感じているというが、「何事も喜び、楽しまないと」と引き受けた。あくまでも自然体だ。人と触れ合うことが何よりの喜びで、座右の銘は「愛と感謝」。家族は夫と二十歳の娘。石垣市生まれ、那覇市育ちの四十九歳。

(嘉数よしの)

23代目県教育委員長に就任した

比嘉 梨香さん



「地域の宝」育てる



「地域の宝を探すことと、子どもたちの中にある種を探すことは一緒だと思う。どう磨いて育てていくか」。復帰後、二十三代目となる県教育委員長に就任した。教育界に身を置いた経験はな

いが、十数年かかわってきたエコツアーリズムや地域振興を通して、子どもたちが一瞬にして変わる状況を何度も目の当たりにしてきた。地域の魅力を掘り起こし、発信し続けてきた情熱は、子ども

たちが生きゆく未来に対する責任感でもある。何よりも大切にしているのは人と人とのつながり。「連携なくして地域振興はない。教育も同じ。家庭、学校、行政、地域、関係機関など、思いを持っている人たちの力をどう借りるかだ。開かれた教育委員会にした」と力を込める。

「最近は何日もないほど多忙な毎日。リフレッシュ法は人との語らいと、美しい風景に心を震わせること。「不安もあるが、明るく元気に進みたい。楽しくないと続かないし、何も変わらない。きっかけをつくれれば子どもたちは夢を持って、自らの足で歩んでいける。いかに大人が応援できる環境をつくっていくかだ」。夫は沖縄都市モノレール社長の比嘉良雄さん。大学生の娘がいる。四十九歳。ビジネスネームは開梨香。(24面に関連)

県教育委員長に比嘉氏



比嘉梨香氏

新教育委員長に選出した。任期は二〇一〇年一月四日まで。任期満了で昨年末に退任した伊元正二前委員長

県教育委員会は五日午後、臨時

会を開き、委員

の互選で

比嘉梨香氏(四九を

の後任。(一部地域既報、3面に「ひと」)

就任あいさつで比嘉氏は「教育行政も知らず、教育

現場に出たこともない素人だが、一人の母親、女性、社

会人、仕事人としての素朴な疑問や素直な意見、こう

なったらいいなという希望や要望を、委員の中で相談

しながら提案させていただ

きたい」と抱負を述べた。

比嘉氏は一九五九年生まれ。那覇高校、琉球大学法文学部社会科学科卒業。沖縄観光コンベンションビューロー評議員などを経て、地域活性化や人材育成に取り組むコンサルタント会社「カルティベート」(那覇市)社長を務めている。特定非営利活動法人(NPO法人)日本エコツアーリズム協会理事。〇七年四月に県教育委員に就任した。